「わかる，できる喜び」「学び合う喜び」を味わわせる体育指導

体　育　科

1．これまでの研究

体育科では，「体育学習に意欲を持って取り組み，そこで，学んだことは生涯にわたって生かし続けることができる強い意志と態度を持った子どもの育成」をねらいとして実践研究を進めてきている。昭和59年度までの研究では，自ら進んで体育学習に取り組む子どもを育成するには，子どもたちの立場から見た運動特性を生かした教材づくりと相互学習の仕方を身につけさせることが重要であることを明らかにしてきた。

昭和60年度の研究では，子どもたちの立場から見た運動の特性を生かした教材づくりや相互学習の仕方が体育学習の中に生かされ，さらに自ら学ぶ意欲や態度を育成するには，一人ひとりの子どもたちが運動との出会いの中で追求してみたい「めあて」を明確に持つことが大切であると考えた。そして，「学習のめあてをつかませる場の構成のあり方」について研究を深めた。

自ら学ぶ意欲や態度を育成するための学習のめあてをつかませる場の構成は，次のように集約することができた。

(1) 学習のめあての設定の手順は，運動をＶＴＲ，示範などによって視覚的理解によるイメージ化を図る。視覚的理解によるイメージ化をもとに試行させ ㋐ どのくらいできるか ㋑ どこがむずかしいかなどを体を通して体感的理解をさせる。次に，視覚的に理解をした時の期待した姿と試行した時の実際の姿のズレを明確にする過程によって自己の能力に応じた学習のめあてが設定できる。

(2) さまざまな個人の学習のめあての中から運動の特性や指導のねらいと照らして共通しているめあてを取り上げると共通のめあてを設定することができる。共通のめあては，友だちと教え合い，励まし合って追求する態度を養うとともに「学び合う喜び」を味わわせることができる。

(3) 学習カードを活用しての自己評価や相互評価を指導過程の中に取り入れることは，自ら動きの伸びの状況やつまずきに気づくことができる。そして，次のめあてを設定し追求意欲を高めることができる。また，相互評価をすることによって「伸びを認め合う喜び」を味わわせることができる。

以上のような学習のめあてをつかませる場の構成によって子どもたちは，自己の能力に応じためあてを設定し，めあてを追求する意欲を持ち続けることが明らかとなった。

また，次の３点が課題として残された。

(1) 自己の能力に応じためあてを設定する時に自己の能力を知るための指導目標分析による評価基準をさらによりよいものにする。

(2) さまざまな個人の学習のめあてから共通のめあてを設定する時の提示の仕方や把握のさせ方を工夫する。

(3) 子どもたちがめあての達成に向けて教え合い，励まし合うことによって「わかった，できた喜び」や「学び合う喜び」を味わうことができる指導過程や学習形態を工夫する。

2．本年度の研究

本年度は，これまでの研究で残された課題を基に「自ら進んで体育学習に取り組む子どもの育成」のねらいに迫るために研究課題を次のようにとらえた。

それは，「学習のめあてをつかませる場の構成」への取り組みを深め，自己の能力に応じためあてが相互の教え合いや励まし合いで追求し，「わかる。できる喜び」や「学び合う喜び」味わわせることができるには，どのような「めあてを追求していく場の構成」をしたらよいかということである。

「わかる，できる喜び」は，めあてが機械的な反復練習だけでのできる喜びだけでなく，「できるためのし方やコツ」を認識して練習をすることによってできる喜びである。

「学び合う喜び」は，一人ひとりのめあてを集団でのかかわり合いによって教え合い，励まし合って追求し「わかる，できた。」という喜びと互いに伸びを認め合う喜びである。

これらの喜びは，子どもたちの運動に対する「探究，成就，所属，創意工夫，承認の欲求」を満足させ運動の楽しさを味わわすことができ持続的な学習意欲を持たせることができると思われる。

そこで，次のような2つの仮説の基に「めあてを追求していく場の構成のあり方」について研究を進めることにした。

(1) 仮説について

仮説1　自己の能力に応じためあてが追求しやすい段階的習得の場を工夫したならば，主体的に取り組み，「わかる。できる喜び」や「学び合う喜び」を味わわせることができると考える。

仮説2　試行→観察→思考→練習→発見・定着というめあてを追求する活動や相互評価・自己評価をする活動する場を入れたならば，互いに教え合ったり，励まし合ったりしてめあてを追求し，自己の動きの高まりの状況を取らえることによって「わかる。できる喜び」や「学び合う喜び」を味わわせることができると考える。

(2) 研究内容

めあてを追求していく場の構成のあり方の2つの仮説を実践，検証するために，次のような研究内容を設定して研究を進めていくことにした。

① めあてを追求し，「わかる。できる喜び」「学び合う喜び」を味わうことができる指導過程を工夫する。
② めあてを追求しやすい段階的な習得の場を工夫する。
③ めあてを集団で互いに協力し合って追求できる場を工夫する。
④ めあての達成状況を評価する場を工夫する。

研究内容の①は，「試行」「観察」「思考」「練習」というめあてを追求する活動を指導過程の中に取り入れ，「発見・定着」によって「わかる，できる喜び」「学び合う喜び」を味わわそうとするものである。

研究内容の②は，自己の能力に応じためあてが達成しやすいように個人差に応じた段階的な習得の場を目標分析によって設定しようとするものである。

研究内容の③は，一人ひとりのめあてを集団でのかかり合いで追求できるようなグループ編成と教え合いや励まし合いのし方を明確にしようとするものである。

研究内容の④は，めあての達成がどの程度できているかを学習カードを活用して自己評価，相互評価することによって的確にとらえさせて，次のめあてを明確に設定させようとするものである。また，自己評価や相互評価によって「わかる，できる喜び」と互いの伸びを認め合うなどの「学び合う喜び」を味わわせて持続して追求する意欲を高めようとするものである。

（岡本）